

資料

1. 都市計画マスタープラン策定のための

アンケート集計結果

(1) 調査の概要

都市計画マスタープランの策定にあたっては、町民の意見を反映し、町民が望むまちづくりを目指すために、アンケート調査を実施し、広くまちづくりに関しての意見、提案を徴集することになりました。

都市計画マスタープラン策定のためのアンケート調査

実施機関

芽室町経済部都市開発課

調査対象者

芽室町に居住する満20歳以上の男女計300人を、性別、年代、居住地区のバランスを考慮の上、無作為抽出

配付・回収方法

郵送により調査票を配布、回収

回収数

配布数 300 票

回収数 76 票 (回収率 25.3%)

調査時期

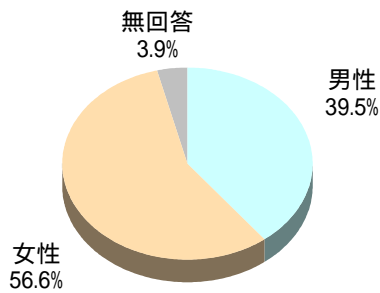
配布日 平成13年9月14日

回収期日 平成13年9月28日

(回収期日後に郵送された票も集計の対象とした)

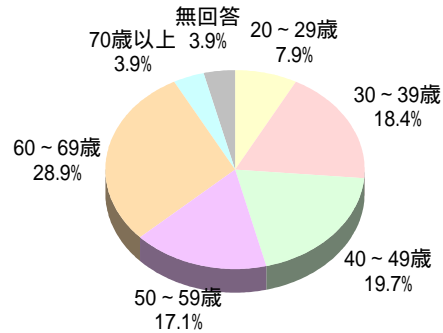
(2) 集計と解析結果

性別



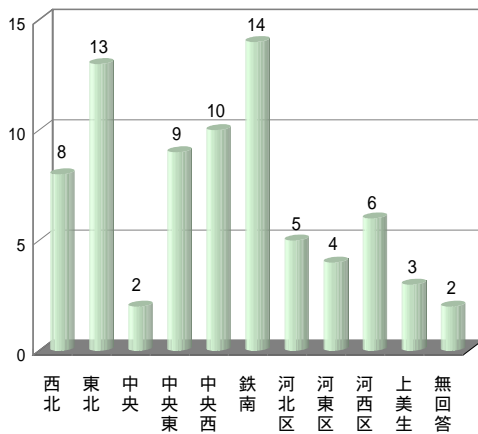
男性が4割、女性が6割の回答になりました。

年齢



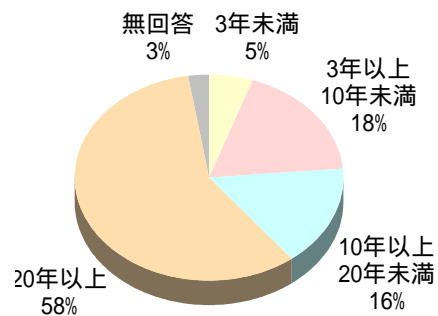
30代から60代の回答が多くなっています。60代の割合が最も高く、全体の3割近くを占めています。

居住地区



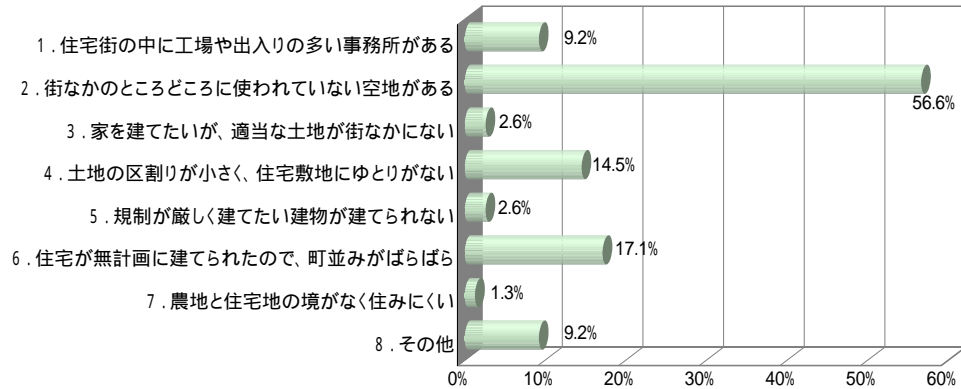
人口比率によって各地区へのアンケート配布数を決めたため、人口の多い地区の回収数が多くなる傾向にあり、市街地（西北、東北、中央、中央東、中央西、鉄南）の回収数が全体の7割以上になりました。

居住年数



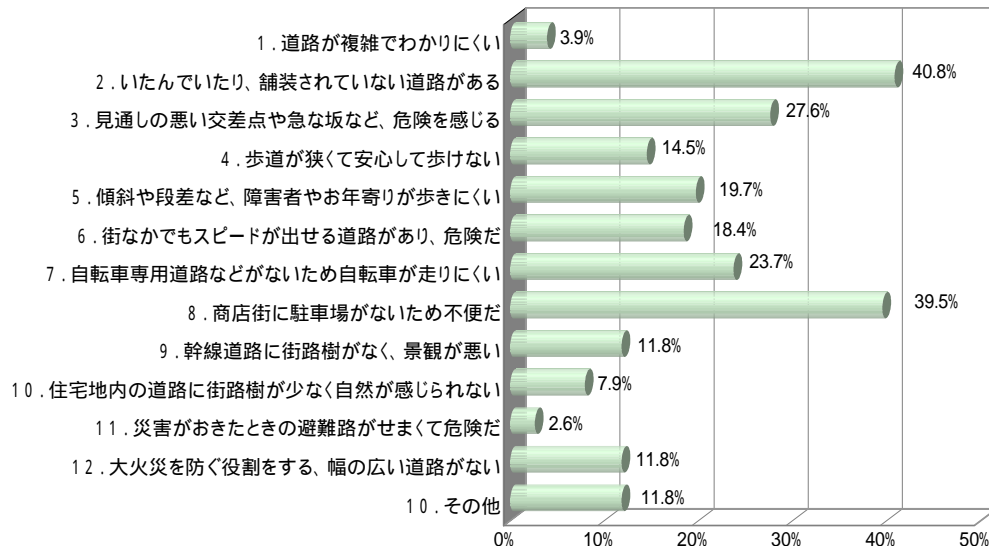
20年以上という回答が全体の6割近くを占め、居住年数の長い方の回答が多くなりました。

土地利用について



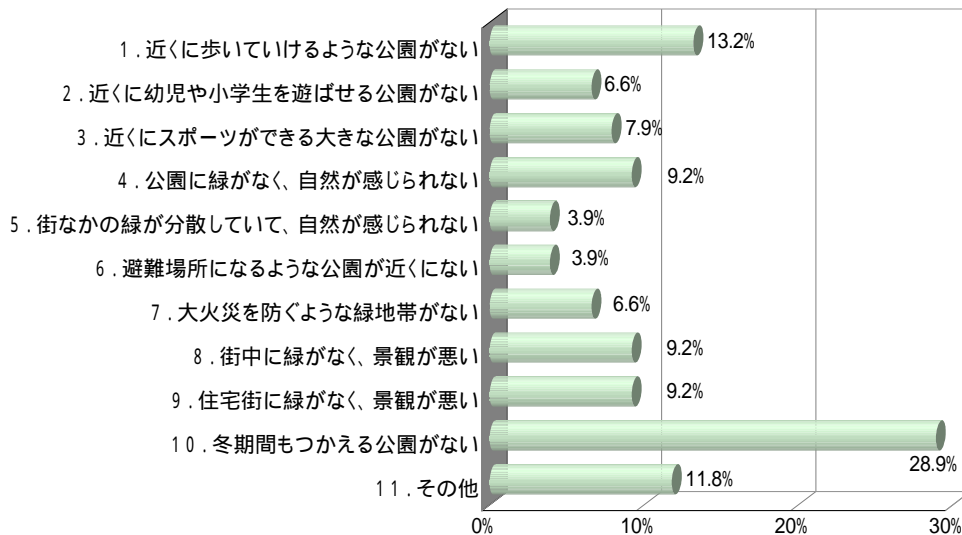
「街なかのところどころに使われていない空地がある」が際立って高く、半数を超えています。次いで、「住宅が無計画に建てられたので、町並みがばらばら」、「土地の区割りが小さく、住宅敷地にゆとりがない」となっていますが、1割を超える程度にとどまっています。

交通施設について



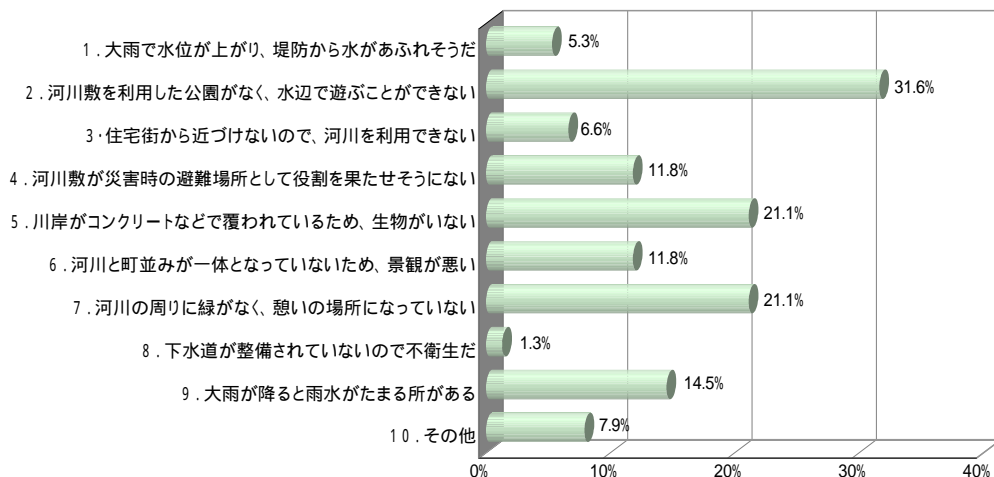
「いたんでいたり、舗装されていない道路がある」、「商店街に駐車場がないため不便だ」が高く、4割前後になっています。次いで「見通しの悪い交差点や急な坂など、危険を感じる」、「自転車専用道路などが無いため自転車が走りにくい」の順になっています。

公園や緑地について



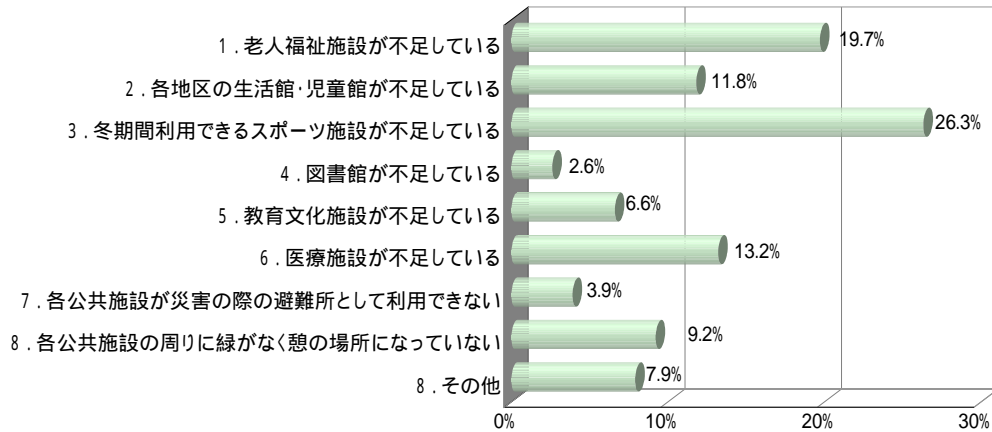
「冬期間もつかえる公園がない」が最も高く、3割近くの回答を得ています。
「近くに歩いていけるような公園がない」が1割を超えていますが、他の回答はどれも1割を満たしていません。

河川や下水道施設について



「河川敷を利用した公園がなく、水辺で遊ぶことができない」が3割、次いで
「川岸がコンクリートなどで覆われているため、生物がいない」、「河川の周りに緑がなく、憩いの場所になっていない」が2割の回答率となっています。

公共施設について



「冬期間利用できるスポーツ施設が不足している」が2割を超えて最も高く、「老人福祉施設が不足している」も2割、次いで「医療施設が不足している」、「各地区の生活館・児童館が不足している」の順になっています。

芽室町のよいところ、悪いところ

芽室町のよいところについての主な意見

- ・本当に緑に囲まれて自然の多い町だと思う。
- ・四季の変化がすばらしい。
- ・帯広にも近く住宅環境も良く適度に自然があり、住みよい所だと思う。
- ・集約された街並みであり便利で住み易いと思う。
- ・全てが手近なところで用が足り（役場・医療・教育など）住んでいて安心できる町だと思う。
- ・環境、利便性ともに他町村に優れている。冬期間の安全確保に行政が努力されている。
- ・街に住んでいるので、公共施設とか商店にも近く、歩いて簡単に用事を済ますことができる。
- ・この北海道が自然に恵まれているのだが、芽室町は日高の山脈と清らかな川の流れ、これらに調和する素晴らしい農業風景と町並み、手入れの行き届いた芽室公園など豊かな自然の町、農業の町芽室は素晴らしくとても住みやすい。
- ・駅も立派になったし、道路も広くてきれい。夏は花がきれいにディスプレイされていて眺めも良い。

- ・商店街の人たちや近所の人達が気さくでホッとする。
- ・公共施設に新しいものが多く、きれいで利用しやすい。
- ・町民のための施設など整っていて住みやすい。都会的で将来性のある街。人口がもっと増えるとよい。
- ・町立病院、図書館が充実している。
- ・各地域にコミュニティーセンター等の施設があり有効に利用している。
- ・公共施設が整備されており大変住みやすい町。大きな充実している病院もある。安心して住める。
- ・最小だけど、ほとんど整っている、文化的な事も感じられる。今後芽室町全体が公園のようになり豊かな町になってほしい。
- ・公共施設の利用が他町村の人たちにも寛大で好評。
- ・芽室公園は管理が行き届きすばらしい所だと思う。
- ・農家が多いので野菜などが安くて良い。
- ・冬期間の雪の降った時、除雪は芽室町内の道路状況が一番良い。
- ・育児ネットが良い。
- ・今回のアンケートもそうだが、住民の声を聞こう、参加してもらおうという行政側の意欲を感じ、未来への期待のもてる町だと思う。
- ・広報「すまいる」が素晴らしい。
- ・物価が安くて、住みやすい。

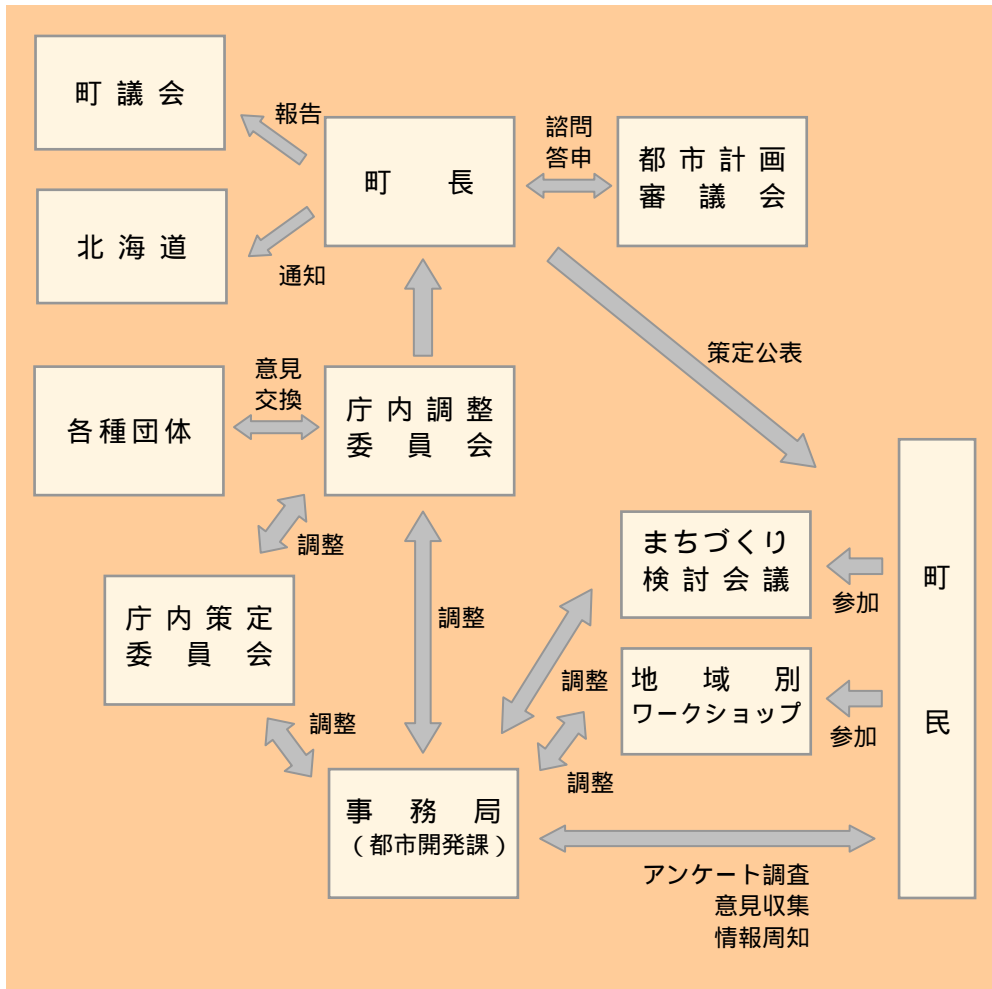
芽室町の悪いところについての主な意見

- ・もっと早くに除雪車が通ってほしいと思う。車1台通れるくらいしか除雪してくれないのでもう少し広く除雪してほしい。
- ・除雪は高齢者にとって深刻な生活そのものの問題だと思うが、熱心に取り組んでいない。
- ・雪が降った時、除雪車はすぐ来てくれるが、道路の雪が家の前に山と積んで行かれるので大変。
- ・冬期間町の中心部のみ除雪が行き届いているが、少し外れるとなかなか排雪されてなく歩道も確保されていない。
- ・農村の文化と個人が親しめるような場がない(グリーンツーリズムやファームインなど)
- ・農家の人と街に住む人の交流を図れていないと思う。特に若い人たち、町の特徴を活用し、更なる発展を望む。
- ・路上駐車が多い。
- ・交通に関するマナーが悪い。後方から車が来ていてもドアを開ける。交差点でも駐車している。
- ・大きなスーパーが芽室の近くにできてほしい。

- ・若い人たちが寄りたくなるようなモダンなおもしろい店がない。
- ・水道料金が高い。
- ・皮膚科・耳鼻科がほしい。
- ・道路に亀裂があり、大型のダンプがスピードを出して走るので音がうるさい。
- ・交通全般について、他市町村へのアクセスはある程度良いと思うけれど、町内の車道、歩道、駐車場の整備はゆきとどいていない。
- ・道路が狭い。
- ・これからの子供たちには心身ともに健全に育ててほしい。家の中ばかりでゲーム等で遊んでばかりいないで、外で元気に遊んで健康になってほしい。
- ・冬に子どもたちは家にこもってしまうので、幼児向け、小学生低学年向けの公園が必要である。
- ・幹線道路の街路灯が街路樹にさいなまれ、暗い所がある。
- ・街灯が少なく夜間見えにくい所がある。
- ・街灯が暗く、デザインが統一されていない。
- ・駅前通りは整備されているが空き地、空き店舗が多い。
- ・街の中心街にあまり魅力がない。また、寂しい雰囲気。
- ・役場の方々にもっと勉強してほしい。
- ・公営住宅が少ない（古いものが多い）。
- ・役場と他の役場関連の施設が離れているので用件を満たすのに不便を感じる。
- ・パーク場は犬の運動場やフンをさせる所ではない。町民の犬の散歩をさせている人にマナーを守らせるべき。
- ・芽室公園には大きな柏や自然が感じられるが、町中にはあまり感じられないことが残念だ。
- ・自然と親しめるような環境が少ない。
- ・帯広市の西地区が整備されて芽室町民には非常に便利が良くなっているが、芽室らしさを取り入れた町を形成していかなければ、特徴がない町になるような気がする。
- ・帯広間のバスの便数が少ない。
- ・新しい事業に手がけるのは早いと思うが、斬新さが少し不足のように思う。
- ・交通が不便。町民が乗れるマイクロで良いから、朝と昼頃に走ってくれと助かる。
- ・大切な農地をどんどん宅地にしている。
- ・条丁目の表現がまぎらわしい。
- ・ノーマライゼーションやバリアフリーなどが目に見える形で表れていない。福祉計画も一般に知られていないし、情報提供の場や専門家の講演会を行うなどできることはたくさんあると思う。高齢者や障害者にとって住みよい町とはいえない。

2. 策定組織

芽室町都市計画マスタープランは、以下のような組織で策定を行いました。



3. 策定の経緯

年 月 日	策定の経緯
平成13年 6月11日	第1回庁内調整委員会
9月14日	都市計画マスタープラン策定のためのアンケートを配布
9月28日	都市計画マスタープラン策定のためのアンケートの回収
10月19日	第1回庁内策定委員会
11月20日	第1回まちづくり検討会議
11月22日	第2回庁内策定委員会
12月19日	第2回まちづくり検討会議 第3回庁内策定委員会
平成14年 1月30日	第4回庁内策定委員会
2月13日	第3回まちづくり検討会議
4月22日	第2回庁内調整委員会
4月24日	第4回まちづくり検討会議
6月20日	第5回庁内策定委員会
7月10日	第5回まちづくり検討会議
10月 9日	第1回地域別ワークショップ
10月31日	第2回地域別ワークショップ
11月18日	第3回地域別ワークショップ
12月 4日	第6回庁内策定委員会
平成15年 2月28日	第3回庁内調整委員会
12月 1日	都市計画審議会にて諮問、答申
平成16年 2月10日	芽室町議会経済常任委員会へ報告
2月	芽室町都市計画マスタープランを決定
3月	北海道建設部都市計画課へ策定を通知
3月	町民に策定を公表

4. まちづくり検討会議の結果

都市計画マスタープラン策定のために、公募により町民の委員を募り、平成13年度から14年度にかけて、全5回のまちづくり検討会議を開催しました。

(1) 開催日時と場所

策定作業	開催日時	場所
第1回まちづくり検討会議	平成13年11月20日	めむろーど
第2回まちづくり検討会議	平成13年12月19日	めむろーど
第3回まちづくり検討会議	平成14年2月13日	めむろーど
第4回まちづくり検討会議	平成14年4月24日	めむろーど
第5回まちづくり検討会議	平成14年7月10日	めむろーど

(2) 委員名簿

氏名	備考
武藤保宏	会長
常通直人	職務代理者
明瀬禎純	
岡山美椰子	
小川喜重子	
加納敏春	
川岸秀光	
佐藤環	
島部亨	
竹田美智子	
立川美穂	
藤田かつ江	
休場美子	
山口祥子	
山田祥博	

(2) まちづくり検討会議の内容

第1回まちづくり検討会議

平成13年11月20日開催

主な内容：委嘱状授与

会長を武藤氏、職務代理者を常通氏に選出

都市計画マスタープラン策定についての説明を行った。

第2回まちづくり検討会議

平成13年12月19日開催

主な内容：芽室町の現状の課題と問題点、その対応策についてテーブルごとに議論した。

主な意見

土地利用

- ・人口の割に市街地が広い。
- ・デンブン工場跡地は墓園、市街化区域として宅地利用する。
- ・養鶏場を移転して跡地を活用する。
- ・車両センターを移転して跡地を活用する。
- ・市街地の東側が発展し、西側とのバランスが悪い。
- ・西工業団地があまり伸びてないので整備が必要である。
- ・元町地区は芽室町の玄関として、また、小学校や寺が最初にできた歴史をもつ地区として早期開発を望む。
- ・住宅街と工場は一緒に混ざってほしくない。

芽室高校跡地の利用

- ・芽室高校跡地は庁舎を移転したり、駐車場とする。
- ・芽室高校跡地は高齢者用施設と保育所を併設した施設や公園にする。
- ・借り上げ住宅にする・イベント広場にする・公共施設を配置する。
- ・年中子供が遊べるような全天候型ドームがほしい。

交通について

- ・東芽室、帯広へ向うアクセスをよくしたい。
- ・鉄道を挟んで南北のアクセスが悪い。
- ・市街地から十勝川を渡って、北側へ行く道路を整備してほしい。
- ・道道東瓜幕芽室線を市街地と北方面を結ぶ道路の整備を充実してほしい。
- ・環状線をもうけ日勝方面や広尾方面へのアクセスをよくしてほしい。
- ・西25号線と2丁目通との交差点が危険であり、アンダーパスにしてほしい。
- ・新生通と上美生通との五差路交差点を改善してほしい。
- ・6丁目通を東へ延長する場合、歩行者に配慮した道路とする。
- ・徒歩だけでは用が足せないまちになっている。
- ・西側や南が丘の新しい道路網がすっきりしていない。
- ・街路樹で標識が見えにくい。
- ・信号機の設置場所に配慮してほしい。
- ・踏切を渡らずに日勝峠へいける道が欲しい。
- ・町立病院からあいあい21、老人ホームへ続く歩道に屋根がほしい。市街地中心部の歩道はすべてバリアフリーにする。

公園・緑地・河川について

- ・ピウカ公園や弥生方面に公園を整備する。
- ・大通公園や芽室公園は将来的に残していく。
- ・美生川東側の河川敷を整備しパークゴルフ場などにする。
- ・自然をそのままに残す所や水と遊べるところがほしい。
- ・利用者の少ない公園は必要ないので、その代わりに何かあればよい。
- ・町立病院やあいあい21の付近に緑がもっとほしい。

公共施設について

- ・役場などの公共施設を集約する。
- ・芽室中学校の校舎が古い。
- ・公営住宅団地が集中しすぎ。公共施設の配置がバラバラで利便性が悪い。
- ・使用されていないコミセンを活用して、老人や子どもたちのふれあいの場所をつくる。
- ・ミニバレー等ができるコミセン、冠婚葬祭のできる大型のコミセンがほしい。

中心市街地

- ・中心市街地が空洞化している。
- ・商店街の連携がない。
- ・東芽室に大型店が進出すると既存商店が心配であるが、それを防ぐ方法は土地利用上の規制しかない。
- ・空き地は借り上げ住宅や駐車場を整備して、有効活用を望む。

- ・病院や福祉施設が充実しているということが芽室町の利点である。
- ・南が丘に商業系施設が不足している。

西大成駅付近

- ・バッティングセンター付近に総合運動公園を整備してほしい。
- ・道路から見下ろされるので、景観に配慮してほしい。
- ・南1線の道路を帯広側に延長する。
- ・2丁目通の4車線化と同時に、道路沿線の宅地化を望む。

その他

- ・イベントできる広場がない。
- ・まちは無理に計画せず、今あるものを有効活用していくことも大切だ。
- ・農業が優遇されているが商業、工業も守り育てていかなければならない。
- ・中高一貫教育を検討し、子どもたちの学力向上を図る。住む場所を選択する際に、公共施設の整備状況や学校の学力レベルで選んでいる場合が多い。
- ・国道38号沿いの本通9丁目付近に道の駅がほしい。



第3回まちづくり検討会議

平成14年2月13日開催

主な内容：土地利用、交通施設、公園・緑地・河川、公共施設の現状と課題が整理され、それをもとに、さらに議論を行った。

主な意見

土地利用

- ・元町地区の整備を進めてほしいと意見を言ったが、方針図に反映されていない。また、市街地を東西に発展させるとあるが、芽室川や美生川に挟まれて発展のしようがないのではないか。
- ・大成地区に住宅地ができて美生川がある以上、橋を架けるなどして人の行き来ができるようにしなければ、中心市街地にメリットはない。みんな西帯広の郊外型大型店に行ってしまうのではないか。
- ・現状と課題では住居系と工業系の混在が問題になっているのに、方針図で元町地区が工業系になっているのは、課題が反映されていないということではないか。
- ・住工混在の解消のため街なかの工業施設を移転しても、移転後の土地利用を考慮しておかなければ、街なか空洞化する恐れがある。
- ・市街地のコンパクト化が求められている時代に、帯広方面に市街地を拡大していくのはいかがなものか。
- ・平成7年の人口予測をもとにした総合計画の市街地規模が、現在でも通用するのだろうか。
- ・少子高齢化を考え、少ない子どもは芽室の宝だという意見をどこかに盛り込んでほしい。

交通について

- ・融雪溝や具体的な排雪についての対策を盛り込んでほしい。
- ・競馬場通は救急車がよく走っている。日勝へ踏切を渡らずに行くことができれば、踏切事故もなくなるのではないか。

公園・緑地・河川について

- ・町の木や花を植えるということも必要だが、長命の樹木の方が景観的にはよいと思う。
- ・大都市と異なり、費用がかかるので街路樹が必要なのか疑問である。
- ・公園の樹木を増やすなど、植栽には適切な場所を考える必要がある。
- ・交差点付近の街路樹は見通しが悪くなるので、必要ないのではないか。

公共施設について

- ・芽室町は既に公共施設が充実しており、財政的にも新たな施設をつくっていくことは難しいのではないかと。

その他

- ・南が丘に商店が少ない。公営住宅があり高齢者も多いが、交通の便が悪いので結局近くのコンビニへ行っている。
- ・商業は商業者の問題として捉えるのではなく、行政も住民福祉と捉え、町営の商業施設の検討などをして良いのではないかと。
- ・高齢者や障害者には、宅配してくれる商売も必要である。
- ・女性が安心して働けるように、夜間に子どもを預けられる託児所がほしい。

第4回まちづくり検討会議

平成14年4月24日開催

主な内容：土地利用、交通施設、公園・緑地・河川、公共施設についての4つの方針図が提示され、これまでの意見が反映されているかどうか、将来的にまちがどのようになるのかという点を中心に議論した。

主な意見

土地利用

- ・市街化区域外ににじみ出しているという表現を用いているが、実際はかなり以前から暮らしている人たちがいる。
- ・高層ビルを建てて土地の高度利用を図るのか、あるいはゆとりのある住宅地形成を目指すのかなどの土地活用の基本的な方向性を定めなければ、市街地をどこまで広げるのかという課題には踏み込めないと思う。
- ・将来人口を考えた場合、市街地を拡大していくことに疑問を感じる。
- ・市街地の範囲は、将来人口に合わせて定めるべきだと思う。
- ・緑豊かなゆとりある生活のために、市街地の拡大も必要だと思う。
- ・20年後は団塊の世代が70代になる時代であり、小さな住宅をたくさん増やすよりも、高齢者用の施設の充足に努めるべきではないか。
- ・計画には、土地利用や開発などの具体的なことは、住民と行政が話し合って実現の方向に向かうということが盛り込まれればよいと思う。
- ・個人の土地に対して、行政が指導できなければ土地の有効活用はできないのではないか。
- ・まちづくり条例をつくるなど、システムづくりが必用と考える。

交通について

- ・スムーズで快適な車移動とあるが、車に快適な道路づくりの視点と、高齢社会に向けた健康で思いやりのあるまちづくりの視点は矛盾していると思われる。
- ・これからは駐車場を考えた区画割りが必要になってくると思う。
- ・交通渋滞をなくするためには、街なかに駐車場の整備が必用だと思う。
- ・逆に駐車場を整備せず、大型車も乗り入れられないようにして路上駐車できるようにするのはどうか。大型車やバスがなければ路上駐車してもよいのではないか。
- ・大型車を使う周辺の人が買い物をしようと思っても、来られなくなる。
- ・大型車の止まる駐車場を付近に用意したらどうか。20年後の高齢社会では、高齢のため車で買い物できない人が増えると思われる。

- ・ 20年後には街なかの高層マンションに住んで、1階の店舗などで買い物をする歩かない生活をしたいものだ。
- ・ 街路樹は、交差点から離れていればあったほうがよい。

公園・緑地・河川について

- ・ 宅地開発に伴ってつくられる公園は利用者のニーズにあっておらず、遊んでいる子どもが少ない。
- ・ 少子化が進むので、公園は子どものものというよりは高齢者のものという考えでもよいのではないか。
- ・ 芽室公園のように機能はあまりない方がよい。
- ・ 公園はもっと集約して規模の大きなものがよい。
- ・ 何もなしの芝だけの公園や遊具の置かない公園をつくることはできる。
- ・ 既存の公園の大きさや機能の見直しが必要である。
- ・ 芽室町は河川に囲まれたまちであるが、その割に活用されていない。
- ・ 生態系に影響を及ぼすので、護岸整備はやったほうがよいのかどうかかわからない。
- ・ 水と触れあえるような場所が公園緑地と合わせて整備されるべきである。
- ・ 冬期間は街なかの排雪もままならないのに、公園まで排雪するのは無理なのではないか。また、公園は芝生を張っているのに重機を乗り入れできない。
- ・ 防災の機能は公共施設や大きな施設で果たすべきで、公園で防災の機能は果たせないのではないか。
- ・ 災害時を想定すると、屋内だけではなく屋外の避難場所を想定する必要がある。
- ・ 屋根のついた駐車場があれば、避難場所になってよい。

公共施設について

- ・ 今後、10年間の公共施設は改修工事くらいしかできないのではないか。
- ・ 冠婚葬祭や運動でも、何にでも使える建物が必要である。
- ・ 何にでも使える建物が、何にも使えないということもあり得る。
- ・ 高齢社会になると、コミセンでは葬儀の利用が増えてくるのではないか。
- ・ 公共施設の利用度は、周辺住民の年齢層などによりかなり違いが出てくるようだ。
- ・ 現状の芽室町の公共施設に不満はない。
- ・ 公共施設がまちの東に集中しているが、建替え時期まで仕方がないだろう。
- ・ 維持管理をしっかりとしてほしいと思う。
- ・ 公共施設を新しく建てるというよりは、今あるものをきちんと活用するという考えを入れてほしい。
- ・ 20年先までに、古い公営住宅などの建替え問題が出てくると思われる。

第5回まちづくり検討会議

平成14年7月10日開催

主な内容：全体構想の素案が提示され、都市計画マスタープランの理念や将来都市像、基本方針などが明らかになり、これらの将来都市像や基本方針について、具体的に議論を行った。

主な意見

土地利用のゾーンについて

- ・ゾーンの括り方に疑問を感じる。例えば田園保全ゾーンとなってしまうと、他に活用ができないのではないかと。
- ・沿道活用ゾーンなどは、田園保全ゾーンになってしまうと沿道としての活用が難しく、帯広へ向かう道路、広域的な幹線道路であることを考え、沿道活用ゾーンとしておくのが良いのではないかと。
- ・市街地のコンパクト化を目指すのであれば、一番拡大が進みそうな地域を沿道活用ゾーンと位置づけてしまうのは良くないし、沿道活用ゾーンとJRの間を田園保全ゾーンとしておくのも無理がある。芽室の街が帯広に流れてしまう恐れがあるので、沿道活用ゾーンは田園保全ゾーンに入れておく方が良いと思われる。

市街地の拡大について

- ・大成より東側の区域についても、宅地のために市街化区域にするという意見などを提案してもよいのではないかと。
- ・未来へ続く持続性のあるまちづくりが求められている。今後、様々な事が変化すると予想され、物理的な側面とともに精神的な理念をしっかりとしないと、環境問題などは物切れで終わってしまい、未来へ続くことができなくなるのではないかと。
- ・市街地がコンパクトで田園に囲まれていることが特徴として挙げられており、20年後もこの特徴を維持していることが望ましい。大成地区は拡大したが、基本的に川から外へ市街地が拡大しにくいまちであると思う。この特徴を生かして、既存の中心市街地を中心にまちづくりを進めるのが良いのではないかと。

20年後の将来像

- ・環境問題などを皆で考えるためには、学校教育以外での人としての社会教育の機会を増やしていくことが、20年後に住みやすいまちをつくっていくことにつながると思う。

- ・ 20 年後と言えば、生まれたばかりの子どもが 20 歳になり、小学生で 10 歳の子どもが 30 歳になり、働いて中心となる世代である。学校教育で芽室のまちのことを教え、愛町精神を育てていくような体制づくりが必要。今のうちから地域の勉強を子どもたちにさせておくことが大切だと思う。
- ・ 少子高齢化という言葉が目立つが、将来は子どもが少ないと言うばかりではなく、子どもが増えて楽しく暮らせるような希望のある言葉を盛り込んでほしい。
- ・ 子どもや教育、環境などソフトの問題が出てきているので、ハードの方針ばかりでよいのだろうか。
- ・ 若いお母さんたちが求めているのはソフトの部分であり、一番大切なことなのではないか。
- ・ 20 年後は高齢者が最も多い時代になり、老人は今よりも施設に入ることが多くなるだろう。そうすると、老人が住める場所を街なかにつくる必要があるのではないか。
- ・ 公営住宅が新しくなっているが、2 階建てで散らばっているのが、高層化して集中することはできないのだろうか。
- ・ 都市マスで直接扱うことではないかもしれないが、高齢者と若い人が一緒に住めるような施設への要望が高い。
- ・ ゆとりという言葉がたくさん出てきているが、本当のゆとりとは、高齢者と若い人が一緒に暮らせるなど、そういう問題に関わることなのではないか。
- ・ 本当にゆとりある生活をしたのであれば、ある程度の自己負担はやむを得ないのではないか。
- ・ 互いに分担し合うというのが協働の理念であり、これまでは国や公共が実行してくれたが、これからは住民が応分の負担をしていかなければならないということだと思う。

5 . 地域別ワークショップの結果

芽室町都市計画マスタープランは全体構想に加えて、より地域に密着した計画となるように、美生川を挟んで西側の既存市街地地区、東側を新市街地地区として、2つの地域における目標と方針を定めるために、全3回の地域別ワークショップを開催しました。

(1) 開催日時と場所

策定作業	開催日時	場所
第1回地域別ワークショップ	平成14年10月9日	めむろーど
第2回地域別ワークショップ	平成14年10月31日	めむろーど
第3回地域別ワークショップ	平成14年11月18日	めむろーど

(2) 委員名簿

氏名	備考
勝俣規正	
川野勝好	
田島浩二	
中村智恵子	
西谷由美	
服部清香	
光川敬士	
休場美子	
矢野廣孝	
山崎光雄	

(3) 地域別ワークショップの内容

第1回地域別ワークショップ

平成14年10月9日開催

主な内容：既存市街地地区の現状と課題について、議論を行った

主な意見

既存市街地地区の土地利用

- ・街なかの空き地はポケットパークなどとして活用するとよい。
- ・南の有効活用ゾーンは、学校があるので文教ゾーンの方が良いのではないかと。
- ・デンプン工場跡地は町有地ではないので、今後の土地活用を検討するゾーンになっている。南の有効活用ゾーンについては、文教的な位置づけの可能性もあるが、そのような可能性を含めて、一体的な活用を考えていく。さらに西の住宅も分断された状態であるために、検討が必要である。
- ・文教ゾーンとして版画工房などの店舗や文化的な施設などを集積するのが良いと思われる。



- ・工業団地は東側ばかりを重視しないで、西側の工業団地の空いている土地を考える必要があるのではないかと。
- ・美生川にかかる土地利用検討ゾーンは、公共施設を配置すると良いのではないかと。
- ・国道より北側の整備は、道路整備をして区画をしっかりとしなければならないと思う。
- ・花菖蒲園の国道を挟んだ反対側に人が住めるようになると良い。
- ・市街地の充実を考えると、美生川の東より先に宅地化されるべきではないだろうか。

既存市街地地区の交通施設

- ・JR線は南北の行き来ができるように、高架にしてほしい。
- ・交通量の多い交差点で、踏み切りに近いために信号の設置できない場所があり、危険である。これまでは、車重視の計画であったが、これからは歩行者が安心して歩けるような、人にやさしい計画であってほしい。車のスピードがでないような道路設計も望ましい。
- ・西25号と2丁目通の交差点は、踏み切りに近いため渋滞がおり危険である。JR線を高架にするなどの対策が必要である。
- ・市街地は東側と西側の土地が低く、中心部の土地が高くなっているため、高架にするよりも、その高低差を利用してJR線のトンネルを削るのが良いのではないかと。整備にかかる費用は、その上の土地を売却してつくり出す。
- ・地下にある方が景観も良くなるし、防音にもなる。
- ・市街地から北へ伸びる道路網が整備されると良い。
- ・市街地を通らずに日勝を結ぶ道路として、芽室南公園付近からの環状道路があると良いのではないかと。
- ・6丁目通が東に延長されて、大成駅にまで続いていくと便利である。
- ・6丁目通の沿道に新たな商業ゾーンができる可能性があるが、買い物客が帯広へ行きやすくなってしまう。
- ・6丁目通については、可能性がないわけではないが、実際に整備していくと費用がかかることなので、具体的な位置で示さず大まかに矢印で表現している。
- ・街なかに駐車場が少なく、街に来ない理由の1つになっている。
- ・福祉ゾーンで、歩道の整備が既に始められているので、それが商業地域に広がっていくと良いと思う。

既存市街地地区の公園・緑地・河川

- ・街の中心部にもっと緑地があるほうが良いのではないかと。
- ・街なかの緑は多く、商店街に街路樹も植えられたので、緑は十分な気がする。ポケットパークができたなら、小さな樹木を植えると良いと思う。

- ・中心部に公園がないため、子どもを育てるには、身近な場所に公園や広場があると良い。
- ・ピウカ公園を川沿いに南まで、延長するのが良いと思う。
- ・美生川沿いにパークゴルフ場があるが、大人しか利用できないので、パークゴルフ場から続く親水的な公園を整備してみんなが利用できるようにしたらどうか。
- ・散歩コースになるような遊歩道がほしい。
- ・美生川のパークゴルフ場から JR 線よりも南側へ続く緑が豊かな遊歩道やサイクリングロードがあるとよい。
- ・芽室町は川に囲まれているが、かつてのように川で遊べるような場所がなくなってしまった。
- ・コンクリート護岸の整備ではなく、自然を残すような河川整備にしてほしい。

既存市街地地区の公共施設

- ・西側に公共施設が少ないので、車両センターを移転し、跡地を公共施設にすると良いのではないか。
- ・緑町は高齢者が多いが、近くに買い物ができる場所がない。タクシーやバスを使っていたりするので、近場に買い物施設があると良いのではないか。
- ・古い公営住宅を建替えて、1階を店舗に、2階を高齢者用住宅にするというのはいかがでしょうか。
- ・20年後は自分たちのような団塊の世代が高齢者になるため、障害者も一緒に住めるような、グループホームがあると良い。
- ・高齢者施設の周辺は公園などがあって、リラックスできることが必要。
- ・個別の住宅でなくても共同住宅で庭があると良い。
- ・学校が古くなっていくので、児童数に合わせて統廃合などを考慮しながら建替えを行っていく必要がある。
- ・芽室町の公共施設は十分に整備されていると思う。
- ・コミセンなどの小さい公共施設が点在していることも必要だが、東、西、南側の地区それぞれにセンター的な機能のある大きな施設があると良い。
- ・家庭で、高齢者の在宅介護に限界がある場合、対応してくれる託老所のような施設があると良い。
- ・託老所のような施設は、保育所などの子どもたちの施設のそばにあって、交流できると良い。

第2回地域別ワークショップ

平成14年10月31日開催

主な内容：新市街地地区の現状と課題、議論を行い、既存市街地地区についての意見を再度徴集した

主な意見

新市街地地区の土地利用

- ・JR線と美生川に挟まれた有効活用ゾーンはJR線を渡る歩道橋を設けるなどして東西の人の行き来をよくし、未利用地を運動施設や駐車場にすると人が集まるのではないかと。
- ・人が町の外へ流れていかないようにするよりも、周辺から来てもらうようにオープンにすることが必要。そして、新しい住宅地に人が集まるように、未利用地を活用した施設づくりで魅力をつくりだす。
- ・新しい住宅地ができて、芽室は農業のまちなので、周辺の田園は守りたいと思う。
- ・芽室には、大きな駐車場がなく、屋外でイベントを行える場所がない。
- ・パークゴルフ場の美生川を挟んだ向かい側に雪捨て場があり、春先には見苦しい。市街地への導入部なので、景観的によくない。
- ・親水公園にして遊歩道やサイクリングロードを設けるとよいのではないかと。
- ・イベントも開催できるとよい。
- ・工業系の土地は、このまま工業系の用途で活用し、新しい住宅地は住宅系の用途で純化した土地利用を望む。
- ・農業機械が大型化したためか、田園風景が以前とは変わったと思われる。

新市街地地区の交通施設

- ・大成駅が西側から利用できるとよい。
- ・ビートを搬送する大型トラックが頻繁に通過するため、信号機を設置するなどの対策が必要である。
- ・国道38号にも信号機を設置してほしい。
- ・大成駅西の2丁目通と工場地帯を結ぶ道路は、2丁目通から国道38号へ抜ける道として、踏み切りがなく、信号機が少ないので便利であるが、2丁目通との交差点に信号がないので通りに入りにくい。
- ・芽室高校前の歩道は片側にして幅員のある方が安全ではなかつたらどうか。また付近に信号機があると安全である。
- ・2丁目通の交通量が多いので、帯広へ向かう別の道が南側にあると良いのではないかと。

- ・既存市街地地区で提案した2丁目通を通らずに日勝へ抜ける環状道路が、美生川に橋を新設して、その帯広へ向かう南側の道路と結ばれると良いのではないか。
- ・一方で、交通の便が良くなるほど、芽室で買い物をせず、帯広へ行く人が増えてしまうことが心配である。
- ・2丁目通を帯広方向に徒歩や自転車で行くことを考慮して、勾配を緩くする、歩道を広げるなどの配慮をしてほしい。
- ・帯広との境界からりらく周辺まで、高校生が通学しているが、暗いので危険である。街灯を設け、通学しやすい環境にすることが必要である。また、生徒の送り迎えの車もあるため、4車線になるときは、学校側に進入しやすくしてほしい。
- ・2丁目通の沿道に寺があるが、2線の交通量が多くて入りにくい。
- ・JRを挟んで南北の道路網が不完全である。
- ・2丁目通が整備されると、帯広から日勝へ向かうメインの道路となるため、新たな観光スポットとなるような施設等があるとよいのではないか。
- ・道の駅ができるならば、農産物がメインになると思う。
- ・新しい住宅地ができるならば、大成駅の駅舎もきれいになり、駐車場が整備されるとよい。
- ・平和園のそばの交差点が出勤時に混雑する。

新市街地地区の公園・緑地・河川

- ・りらく周辺の緑地帯を保全してほしい。
- ・工業団地に公園があるが、工業団地の人しか使っていない。公園を整備するのであれば、芽室公園やパークゴルフ場のように、使用目的のはっきりとした公園にすることが必要であると思う。
- ・河川沿いに柳の植生があるが、河川が氾濫した際には危険ではないか。貴重種であるが、安全性を考えた保全のしかたを考慮してほしい。
- ・2丁目通南のJR線付近の土地は、土地が低くなっているため使いづらいが、自然を残した公園のような整備がよいのではないか。その際には、2丁目通を挟んで北側の住宅地との行き来をよくしたい。
- ・美生川から帯広へ続くニュージルシの樹林地は保全が必要であると考え、管理をしっかりしないと、ゴミが投棄されている。
- ・このままではうっそうとしているため、近隣に住宅地が増える際には整備が必要なのではないか。また、樹林の中に道路があるが、帯広に向かう際には便利なので、自然を残しながら整備が必要であると考え。

新市街地地区の公共施設

- ・新しい住宅地には、小さな郵便局や、書類が取れるような役所の出先機関が必要ではないか。

既存市街地地区に関する追加意見

- ・祥栄橋から西側に橋がないために、北側と市街地との連絡が不便である。
- ・全体構想でも話が出ていたが、実際には十勝川という大きな河川に橋を架けるのは大変なので、軸線は祥栄橋を通る1本しか考えられないだろうと思う。
- ・芽室高校跡地の活用について、サッカー場などの運動施設にするのはよいが、駐車場がつかれない。
- ・国道の北側に駐車場があっても、市街地側に魅力がなければ利用されないだろう。
- ・跡地は、既存施設を建替えの際に移転したり、その際に施設を集中させて利用する考え方もあるのではないか。
- ・現段階で、トイレの設置くらいは必要ではないか。
- ・駅前商店街に空き地が目立つので、商店が集中している方がよいのではないか。
- ・駐車場がないため不便であり、街なかあまり人が歩いていない。
- ・国道38号より北側に住んでいるが、道路網が整備されていないため不便を感じることもある。
- ・農協倉庫の脇の踏み切りが混雑していて、中心部へ行きにくいので、結局帯広で買い物を済ませてしまうことがある。
- ・中心市街地に駐車場が少ないので、街なかで用をたすためにはある程度の大きさの駐車場が必要である。また、商店街の活性化のために、商店街前の駐車禁止をやめて、駐車できるようにしてほしい。
- ・美生川付近にはパークゴルフ場しかないので、パークゴルフ場から南へ遊歩道などを整備してほしい。
- ・単身で暮らしている高齢者が、世話人のいる集合住宅で集まって暮らしていけるような施設がほしい。
- ・高齢者の住宅は、街の中心部に近い芽室高校の跡地に建てるとよいのではないか。
- ・JR線の南北の分断を解消し、街が1つになるようにしてほしい。

第3回地域別ワークショップ

平成14年11月18日開催

主な内容：地域別構想の素案が提示され、それをもとに議論を行った。

主な意見

土地利用

- ・美生川とJR根室本線に挟まれた地域は、景観面を含めて、重点的に整備してほしい。
- ・農業が基幹産業のまちなので、農業を守り、子どもたちが帰ってきたくなくなるようなまちづくりを進めてほしい。

交通施設

- ・住宅が、道路との敷地境界線いっぱい建ってしまうと、屋根からの落雪が歩行者に落ちてくる危険があったり、また、障害物が歩道にはみ出て、歩きにくいことがあるため、新しい宅地開発では、セットバックなどの対策が必要だと思う。
- ・2丁目通が拡幅されると、道幅が狭くなる東4条付近での渋滞が心配である
- ・日勝から帯広まで2丁目通を通らずに、大型車両が通過できるバイパスがあると良いのではないか。
- ・バリアフリーに対応した道路で、歩道と車道の段差がなくなると、車の乗り入れに利用されてしまうというマイナス面がある。
- ・JR根室本線による市街地の分断を解消するために、できるだけ早く、南北の行き来ができるような交通網の改善を望む。
- ・新市街地に住宅地ができると、子どもたちは芽室小学校に通うことになると思われるが、現状では、交通量の多い2丁目通を通ることになるので、2丁目通を通らないために歩行者専用道路などが必要である。
- ・芽室駅にキヨスクがあるとよい。
- ・2丁目通から日勝へ向う道路は、幅員が狭く、きついカーブやその先に踏み切りがあり、危険であるため改善を望む。

公園・緑地・河川

- ・街路樹は、四季の変化が楽しめる植栽にしてほしいと思う。また、交差点付近の樹木は、視界を妨げる恐れがあるので、低木にするか、交差点付近には植えないようにしてほしい。
- ・りらくの前には紅葉などのりっぱな樹木が植えられているが、2丁目通の拡幅によって、切られてしまう心配がある。
- ・畑が大型になって、防風林が失われているようだ。

- ・安全性ばかりを重視して、遊び心のある楽しい公園が少なくなってしまった。
- ・子どもは色々な体験をしながら、危険なことは何かを身につけていくものだが、そのように考える親も少なくなった。
- ・少しでも危険があると、すぐに遊具も使用禁止になってしまう。
- ・結局、安全であることと、人にやさしいということは違うような気がする。
- ・墓地の周囲には、周辺からの視線を遮る緑を植えると良いのではないか。
- ・少なくとも、高齢者用施設から墓地が見えるような配置にはするべきではない。
- ・巣箱を設置して、小鳥たちが集まるようにしている公園があるが、子どもたちが非常に喜んでいるので、大成地区に新しく公園ができるのなら、そのような小動物とふれあえるような公園にしてほしい。
- ・橋から見える河川敷の景観は、その街の整備度が判断されやすいので、整備されていない場所はきちんとしてほしい。

公共施設

- ・緑町などの中心街から離れた公営住宅は、付近に商店がないため大変なのだが現実に商店ができる可能性が少ない以上、公営住宅を芽室高校跡地などに建てて、高齢者を街なかに住まわせるべきではないか。子どもと高齢者が安心して暮らすことのできる環境を整えることで、若い人や退職者に将来は芽室で暮らしていこうという気にさせるのではないか。
- ・高齢でも、かなり歳をとらなければ介護されず、自力で頑張らなければならないし、高齢者が高齢者の力を頼りにしなければならない時代になると思う。
- ・災害が起きたときの避難場所を知らない町民が多いと思う。
- ・公園などの避難場所は、一年中、使える状態にしてほしい。



6 . 庁内策定委員会の結果

都市計画マスタープラン策定のために、庁内の課長補佐、係長職による庁内策定委員会を組織し、平成 13 年度から 14 年度にかけて、全 6 回の委員会を開催しました。

(1) 開催日時と場所

策 定 作 業	開 催 日 時	場 所
第 1 回庁内策定委員会	平成 13 年 10 月 19 日	めむろーど
第 2 回庁内策定委員会	平成 13 年 11 月 22 日	めむろーど
第 3 回庁内策定委員会	平成 13 年 12 月 19 日	めむろーど
第 4 回庁内策定委員会	平成 14 年 1 月 30 日	役場
第 5 回庁内策定委員会	平成 14 年 6 月 20 日	役場
第 6 回庁内策定委員会	平成 14 年 12 月 4 日	役場

(2) 委員名簿

所 属	13年度 氏名	14年度 氏名
総務部 企画調整課	武田 孝 憲	手島 旭
総務課	大野 邦 彦	佐野 寿 行
住民福祉部 住民生活課	五十川 義 明	五十川 義 明
住民福祉部 住民生活課	高橋 将 英	高橋 将 英
保育所	嶋野 健 治	嶋野 健 治
保険福祉課	中川 ゆかり	中川 ゆかり
〃	和田 真由美	和田 真由美
〃	佐野 寿 行	武田 孝 憲
〃	手島 旭	佐藤 三 舟
消防署	猿渡 政 治	島部 博 文
経済部 商工観光課	柳谷 哲	柳谷 哲
〃	河西 修 治	河西 修 治
〃	小林 正 彦	小林 正 彦
建設課	嶋中 利 春	嶋中 利 春
〃	竹内 則 昭	青山 日出夫
〃	佐藤 一 成	佐藤 一 成
〃	福田 秀 夫	福田 秀 夫
水道課	奈良 隆 二	竹内 則 昭
〃	鳥本 信 一	鳥本 信 一
農林課	谷保 義 明	大野 邦 彦
農業委員会	佐々木 晴 彦	佐々木 晴 彦
教育委員会 管理課	大熊 潤 司	大熊 潤 司
社会教育課	小笠 原 力	堀井 洋 三
〃	清水 あけみ	清水 あけみ

(3) 市内策定委員会の内容

第1回市内策定委員会

平成13年10月19日開催

主な内容：都市計画マスタープラン策定に関する説明を行った。

第2回市内策定委員会

平成13年11月22日開催

主な内容：芽室町の現状と課題・問題点、その対応策についてテーブルごとに議論を行った。

主な意見

土地利用

- ・市街地に点在する空き地の活用を検討する必要がある。
- ・空き地については所有者を明らかにするなど、情報公開の可能性も考えてはどうか。
- ・空き地は駐車場や借上げ住宅などの活用を検討する。
- ・デンブン工場跡地も含め、住宅地に近い工業系用途の土地を住宅系に変更する必要がある。また、住宅地にも工場が残っているので、移転を促進する。
- ・都市計画区域は将来人口を見込み、それに相応する土地利用を考慮した上で決定する必要がある。市街地がドーナツ現象化する恐れもある。将来人口は3万人が理想ではないか。
- ・利便性の高いまとまりのある市街地形成に向け、無秩序な市街地拡大への対応策や計画的な新市街地整備の検討が必要である。美生川を挟んで帯広側への市街地の拡大や、西側・南側方向への市街地拡大、公共施設配置の在り方については、住宅地の需要動向を見据えての議論が必要である。
- ・市街地内の大規模未利用地の活用についての検討が必要である。
- ・長期的に見て、現在の南北に長い街区よりも東西に長い街区の方が有効で敷地や道路にゆとりがもてる。
- ・市街地拡大の方向としては南西を住宅地として検討する。その場合、芽室霊園の移転も検討するのはどうだろうか。

- ・美生川東側の遊休地に将来的には体育施設を集約して利用していく。さらに帯広方面に住宅地を拡大するのが望ましい。

交通施設

- ・美生川を横断し、市街地と帯広を結ぶルート強化が必要がある。
- ・立体交差になっているのは上美生通との交差点のみという状態で、鉄道により南北が分断されている。
- ・未舗装の道路や、構造上マンホールが車道の真ん中にある道路などを解決したい。
- ・道路の整備においては、排雪を考慮した幅員、設備にするべき。
- ・美生川を横断する幹線道路の配置など、市街地と帯広市とを結ぶ東西幹線道路網の位置づけが必要である。
- ・西25号と鉄道との、平面交差点における安全性の確保のため、都市計画上の位置づけについて再検討を要する。
- ・御影地区など、近隣地域からの市街地へのアクセス性の向上を図るなど、広域的な市街地の役割を踏まえた道路網の整備が必要である。
- ・高齢化社会に対応した歩道の整備においては、歩車道の段差解消に係わる整備手法の検討が必要である。
- ・市街地から日勝に続く幹線道路を整備する。バイパスを設けるのはあまり望ましくない。

公園・緑地・河川

- ・美生川は市街地の南側が急流で危険なので、ピウカ川の市街地を流れる部分で親水性のある空間を演出する。
- ・公園・緑地はほぼ充分と思われる。
- ・街路樹は道路による格差がなくメリハリが感じられない。
- ・都市計画決定されていない公園を含め、公園や河川の管理に問題がある。
- ・街なかにおいて十勝の豊かな自然が実感出来ないため、中心市街地や美生川に並木やシンボリックな高木を植栽することが必要である。
- ・親水性のある河川空間の確保のため、ジョギングロードやサイクリングロードの整備が必要である。
- ・遊べる公園や魅力ある公園など、公園整備の位置づけを明確にする必要がある。
- ・街区公園は小規模で使われていないので、できるだけ統合し規模を大きくする。
- ・公園の管理は、町内会など住民との協力体制を進める。
- ・魅力ある公園の創出に向け、市街地内の既存公園の再整備を検討する。
- ・市街地内の既存の緑地・自然林などの活用法を検討する。
- ・子供や高齢者・若者といった利用者の特性に応じ、賑わいの場、憩いの場、レクリエーションの場など、個々の有する機能を明確にした公園整備を行う。

公共施設

- ・体育施設が混みあっている状態なので、コミュニティーセンターで軽スポーツができるようにしたい。
- ・ハコモノの整備は充分であると思われる。
- ・市街地の西側に公営住宅、東側に病院があり施設が偏った配置になっている。
- ・今後は、近隣市町村と施設の整備面で競争するのではなく、補いあうような形での施設整備が望ましい。
- ・空き地対策、高齢者対策として、公営住宅を中心部に配置し、街なか居住を促進する。福祉施設は集約して公営住宅を含めてゾーンとして扱うのが望ましい。

防災について

- ・防火水槽の確保や避難所における炊事施設の確保など、大規模災害に備えた対策が必要である。
- ・河川敷地における公園整備などに際しては、災害時の給水活動に係わる車路の確保を検討する必要がある。
- ・路上駐車に対する規制強化や、冬期間においては雪山の除去など、消火、救急活動に支障となる原因に対策が必要である。
- ・広幅員の道路など、市街地内の大火時における延焼抑制機能の確保が必要。
- ・新市街地の整備にあたっては、消火、救急活動に配慮した街区の配置・形状などを検討する必要がある。

高齢化への対応

- ・公営住宅や借上げ住宅などの街なかにおける共同住宅の確保が必要である。
- ・公共施設の改修、新設にあたっては、バリアフリー化はもとより、介護、救急活動に配慮した整備を行う。
- ・歩道の整備は、病院や役場といった主要公共施設へのアクセス確保など、歩行者ネットワークの優先順位づけや街路樹の配置との整合性を踏まえた整備計画のもとに行う。

中心市街地の機能向上

- ・機能的で利便性の高い市街地形成に向けた土地の高度利用を図るため、空き地の活用や歩道の整備と一体となった中心市街地の面的な整備を検討する。その際、防災の視点を考慮する。

その他

- ・市街地の整備や交通網の検討の際、広域的な視点を考慮する。
- ・高齢化に対応するには住宅は低層が望ましい。バリアフリーなどは中途半端は良くない。

第3回庁内策定委員会

平成13年12月19日開催

主な内容：芽室町の現状課題・問題点、その対応策についてのまとめをもとに、議論を行った。

主な意見

高齢者向けの借り上げ住宅について

- ・階段で上がらなければならない階に高齢者の住居があるのはつらいと思う。
- ・高齢者用の住居は低層の方がよいが、4、5階くらいで中途半端にエレベーターのない施設よりは、少々高くてもエレベーターのある建物の方がよいのではないか。また、車イス利用者に階段は無理である。
- ・検討中の借り上げ住宅の範囲は中心市街地になっている。病院やスーパーなどの複合で利便性の高い借り上げ住宅となれば高層化もやむを得ない。高齢者住宅は交通アクセスのよい中心に近い場所が良いと考えている。
- ・高層住宅に暮らす高齢者に閉じこもり現象が見られるので、留意されたい。
- ・高齢者住宅の全てが中心部にある必要もないと思う。

市街地の拡大について

- ・人口の伸びはあまり期待できないという方向で、現実的な市街地の拡大範囲を決めていくほうがよいのではないか。
- ・帯広圏は若干人口が伸びている現状であるが、無理に市街地拡大を図ることはならないと考える。
- ・中心市街地など空洞化防止のために市街地の拡大範囲を押さえるとしても、空き地となっている民地はどうすることもできないのではないか。
- ・計画の中であまり人口規模を確定してしまうのもどうかと思う。
- ・現在の墓園を造成した当初は、これ以上南側の市街地の拡大はありえないという考えであった。西側も西工業団地によって工業系に余裕があるし、北側も一部工業系がある。また十勝川や東芽室の開発は事業費ベースでかなり費用がかかる。もし市街地を拡大するのであれば、誰が（官か民か）どのようにするのか考えていかなければならない。
- ・市街地の拡大に関する最終的な部分までは、今回の都市マスでは踏み込めないだろう。
- ・中心商業地部分に住宅系を取り込むなど、土地利用は拡大を含めてゾーニングという捉え方でよいのではないか。

土地利用

- ・どうしても流入人口の多い地区の学校のレベルが高くなってしまふ。学校の区域などはなんとかならないのだろうか。
- ・東芽室に住宅地が増えたとしても、学校を新しくつくることはないだろう。また、東芽室に公共施設をつくるとしてもコミセン、福祉館くらいではないか。

交通施設

- ・公営住宅付近での路上駐車が目立つが、大きな駐車場を一箇所に設けても、結局近くの路上に停めてしまうのだと思う。
- ・中心商業地でも駐車場ができることで効果は期待できないと思われるが、従業員など長時間駐車する車には駐車場が必要である。
- ・降雪時の緊急車両の通行を考慮し、道路幅員 8 m は 9 ~ 10 m にならないか。
- ・住宅建設時に駐車場を確保できればよいが、アパートの多い地区は駐車スペースの確保が難しい。
- ・マンホールは構造上、車道に設けるしかなく、凍上でマンホールの周りの道路が下がってしまうのでマンホール部分が出てきてしまう。
- ・6丁目通の帯広方面への延伸や、日勝に続く幹線道路整備はよいと思う。
- ・西25号の鉄道交差点でのアンダーパスは構造上難しく、2丁目通の交差点も踏み切りに近いので信号の設置が難しい。
- ・障害者や高齢者に配慮した歩道の整備では、例えば点字ブロックは車椅子にはつらいなど一長一短の部分もある。しかし、全体としてふれあい小路など、既成市街地エリアを含めての事業はよいと思う。
- ・横断歩道のふち石はフラットな方がよい。

公園・緑地・河川

- ・公園を雪捨場として活用したい。
- ・避難所となっている公園は避難所として冬期間も確保しておきたい。
- ・交差点付近の視界の妨げとなる街路樹はない方がよい。
- ・大規模緑地確保のためには、市街化区域を拡大し、都市計画決定するということもあり得るのではないか。
- ・河川敷地のサイクリングロードやジョギングロードもよいが、高齢者が使えるように身近な公園の中に散策路などがあってもよい。
- ・公園と公園、河川を結ぶ歩行者や自転車のネットワーク、自然の中を歩ける散策路もよい。
- ・公園でそり遊びをするなど、冬期間子どもたちが遊べる場所があればよい。

公共施設

- ・総合体育館は大会の時など周辺に駐車車両があふれているが、西側の駐車場は空いている。

第4回庁内策定委員会

平成14年1月30日開催

主な内容：基本方針が提示され、それをもとに議論を行った。

主な意見

土地利用

- ・住工混在の問題で、日常生活に悪影響を与えるという点では、住宅に暮らす人にとっては影響があるかもしれないが、工業を営んでいる人にはあてはまらないのではないか。現在の住工混在の土地利用は法的にも問題はないのだろう。
- ・住宅付きの工場などの場合、騒音や臭いなどの指摘が出ている。また、大型車両や従業員の路上駐車などで交通面でも問題がある。できれば混在は避ける方が望ましい。
- ・市街地の西側は利便性の問題で発展できなかったというのではなく、工業団地のため限界があったということではないか。また、無理に西側を発展させていくのもいかなものか。
- ・墓地を移転して南側に伸ばすしかないのではないか。
- ・街区の再整備は市街地をすべて区画整理しなければならないのではないか。
- ・当面は新たな街区の中で検討をしていくということでのよいのではないか。
- ・街並みは、ある程度の幅員のある歩道に統一感をもたせるだけでも美しいと思われる。
- ・街全部というのは違和感がある。路線ごとの統一感でよいのではないか。
- ・商店街と協議して車道を狭め、歩道を広げていくなど通りごとに少しずつ整備は可能であると思う。
- ・メイン通りを集中して整備してしまうと裏側は未整備のまま差が生じたり、きれいになっても人がいなくて淋しさを感じてしまうという問題がある。
- ・全体として見た場合、住宅系以外では、工業系で東工業団地は空いているものの、工業団地をどこへ伸ばしていくかという方向性も必要ではないか。
- ・西の工業団地は東にまとめた方がよいと思う。
- ・今後20年間で住居系、工業系ともに極端な伸びはないであろうと考える。
- ・工業系の土地利用に関する記述が少しはあってもよいのではないか。
- ・工業専用地域の横なども工業専用地域の色塗りになるのではと考えている。しかし、住居系のすぐ横が工業系になるなどの極端なことはありえない。

交通施設

- ・路上駐車の問題で、店舗のすぐ前に駐車場がなければ結局、路上駐車してしまうのではないか。パチンコ店周辺を除けば、駐車場は足りていると思う。
- ・公共の駐車場を自分の車庫がわりにしている人がいる。
- ・近くに停めたいために、使われるべき駐車場が使われていないことはあるかもしれないが、実際に駐車場が不足しているという意見は多い。
- ・公共駐車場でも買物客より従業員が駐車していることがある。

公園・緑地・河川

- ・公園に対しては色々な意見やイメージがあり、これまでの確立された公園では利用者の要望に応えられなくなってきている。これからは計画段階から地域の方々と一緒につくっていくことが必要と考える。
- ・冬期間使える公園に関しては、特に冬に特化していなくとも良いのではないか。
- ・避難場所になっている小さな公園は、現在地域の雪捨場になっており避難できない状態になっているがそれでもよいのか。
- ・常に除雪しておくという意味ではなく、空地として大災害時の仮設住宅などの用地として確保しておくという位置づけである。

第5回庁内策定委員会

平成14年6月20日開催

主な内容：全体構想の素案が提示され、現状と課題から各基本方針まで、通して議論を行った。

主な意見

公園・緑地・河川の現状と課題

- ・公園の機能を明確にしてとあるが、公園の機能はいくつも兼ねていると思われるので、明確な機能を持たせることに利点があるのか疑問である。
- ・生活に密着した公園とあるが、単に住む家の近くに公園があればいいという問題では済まないと思う。

土地利用の基本方針

- ・沿道活用ゾーンとは、現在、用途地域の指定がない場所にあり、新たな住宅地域が広がり2丁目通が拡幅された場合、無計画に建物が建ってしまう恐れがある。特に何が建設されるという具体的なイメージはないが、計画的で有効な活用を検討するという意図である。
- ・田園保全ゾーンが分断している。沿道利用ゾーンとJR線との間は市街化されてくる区域になっていくと思われる。

公園・緑地・河川の基本方針

- ・現在ハザードマップを作成中だが、もし芽室川が決壊した場合、ピウカ公園などは危険性があると思われるので、避難場所に適しているのかどうか検討中である。

市町村の合併問題について

- ・市町村合併になった場合、現段階では、芽室町の都市計画区域の中で策定していくしかない。合併しても我々が生活する生活拠点として変化はないが、合併により都市計画区域が変わる可能性はある。その場合、見直しは必要になると思われる。
- ・合併になれば、合併協議会において、平成17年度以降の計画がある市町村については、それらの個別計画を一度集め、新たな市町村の枠組みで新市町村建設計画をつくり、その中に盛り込んでいくことになる。各市町村が長期的な計画を立てていても、協議会で調整していくことになるので問題はないと思われる。

第 6 回庁内策定委員会

平成 14 年 12 月 4 日開催

主な内容：地域別構想の結果と素案が提示され、既存市街地地区、新市街地地区それぞれにおいて意見をかわした。

主な意見

既存市街地地区の現状と課題について

- ・土地利用で「住宅地の環境を守るための対応が必要」とあるが、どのような措置が可能なのだろうか。また、「芽室高校跡地は有効に活用」とあるが、課題としてはよいが、実際は難しい問題と思われる。

既存市街地地区の基本方針について

- ・基本方針の内容は、財源的に根拠のあることでなければ、絵に描いた餅になってしまうと思う。
- ・「東西に長い街区構成に変更」とあるが、既存市街地で再整備が可能とところがあるのか疑問に思う。
- ・方針で出ている、検討した結果、整備しないこともあり得ると思う。また、方針なので方向性が述べてあれば良いと思う。
- ・計画書には、実現できることであれば良いが「西 25 号のアンダー化を進めます」とあれば、町民は必ず実現すると思ってしまうだろう。
- ・財政的担保がなければ、成り立たないことだと思う。
- ・ある程度、実現可能なものをピックアップしていくしかない。
- ・西 25 号は、アンダー化しても実際に 2 丁目通と擦りつけができれば、いくら金をかけても不可能ということになる。できないのであれば、記載しないか、アンダー化でなくても他の方法で検討するという表現にするべきだ。
- ・グループホームのように、あまり具体的な施設を挙げない方が良いのではないか。

新市街地地区の現状と課題について

- ・「国道 38 号沿いの工業団地は景観的な配慮が必要」とあるが、企業側にとっては見えた方が良いのではないか。
- ・企業側にとっては、沿道から見えた方が良いのかもしれないが、市街地の環境保全のためには、緩衝となる緑地も必要である。

新市街地地区の基本方針について

- ・土地利用のところで「農地は田園風景として保全」とあるが、東芽室の新市街地は帯広側へもう拡大しないのか疑問に思う。また、総合計画との整合性は必要である。
- ・交通施設のところで「芽室高校周辺は歩行者の安全を十分考慮」とあるが、歩道の拡幅とか歩道橋を設けるとか、具体的なものが必要と思われる。
- ・「建物のセットバック」とあるが、これから建てる建物にセットバックの指導をしなければならないのか疑問である。
- ・新しい市街地にセットバックの規制をかけるかどうかは難しいが、最低でも、歩行者空間が雪でふさがれるという状態は避けたい。



芽室町 都市計画マスタープラン

発 行 北海道芽室町

〒082-8651 北海道河西郡芽室町東2条2丁目14番地

ホームページ <http://www.memuro.net/>

TEL (0155) 62-2611 番

FAX (0155) 62-7036 番

編 集 芽室町経済部都市開発課

E-mail t-keikaku@memuro.net

発行日 平成16年3月